



広 報

2011
1/10

No.557

あ

い

づ

ば

ん

げ



広瀬幼稚園 しめ縄飾りづくり

今月の内容

町長より新年のごあいさつ	2
火の元 もう一度!	3
新鶴IC100万台利用記念イベント	4~5
あいつばんげ市民討議会	6~7
男女共同参画プラン	8~9
申告相談予定表	10~11
町史編さんだより	12
食育だより	13

図書室だより	14
まちの話題	15~17
お知らせ information	18~21
民生児童委員改選のお知らせ	22
7地区だより・戸籍の窓口	23
健康づくり・すこやか	24~25
裏表紙 (広瀬幼稚園しめ縄飾りづくり)	

「好き！すき！ばんげ！」

「二万人への挑戦」



明けましておめでとうございます。輝かしい年の初めに当たり、町民の皆様のご多幸を心よ

りご祈念申し上げます。長期化、深刻化する経済不況の下で、町民の皆様が懸命のご努力をされていることに対し、敬意を表します。

昨年産米は、前年までに生産された在庫及び「米戸別所得補償モデル制度」の導入等の影響により、大幅な価格の下落となりました。さらに、春先の低温及び夏の猛暑の影響により品質低下を招き、過去の「干ばつ」や「冷害」時のいわゆる農業災害が発生した状況以上に農家経営を圧迫しております。

この品質低下を異常気象による農業災害と位置付け、緊急に農業経営の安定を図るための措置を講じて参りたいと考えておりますので、町民の皆様のご理解をお願いいたします。町民生活が豊かになるためには、基幹産業である農業の振興が不可欠ですので、最重点施

策として取り組んで参りたいと考えております。

平成二十三年の四月からは、町の新しい総合計画であります「第五次振興計画」に基づき、まちづくりを進めて参ります。この計画は、「地域が輝くまちづくり創造委員会」の皆様が平成二十一年、平成二十二年の二年間をかけて素案を作成していただいたものであります。委員の皆様のご努力に対し深く感謝を申し上げます。

また、「第五次振興計画」では、新たに公民館単位に地域住民自らが地域づくりの目標や事業計画を盛り込んだ「地域づくり計画」を策定することとし、公民館運営委員、自治会会長など各種団体の役員を中心に四十名程度で「地域づくり協議会」を設置していただきました。各地区ともに入九回の協議会を開催し、短期間で「地域づくり計画」を策定していただき誠にありがとうございます。地域づくり協議会の関係者の皆様にご心より感謝を申し上げます。

どちらの計画につきましても、町民の皆様が中心となって創り上げた、町民の皆様の想いが込められた計画でありますので、計画の実現に向けて先頭に立って頑張って参りたいと考えております。

「第五次振興計画」の将来像として、「好き！すき！ばんげ！」二万人への挑戦」を掲げております。「好き！すき！ばんげ！」には、自分が好き、人が好き、地域が好き、町が好き、子どもからお年寄りまで「ばんげ」を好きになれるような「まちづくり」を進めていくという意味が込められています。「二万人への挑戦」は、少子化による人口減少社会の中で、どのように人口を増やしていくのかという非常に難しい課題に、あえて挑戦していくという意気込みが込められています。

定住人口に交流人口、さらには町の応援団も含めて、みんなで「まちづくり」を盛り上げ、子供からお年寄りまで全ての町民が元氣いっぱい、全ての町民が住み続けたいと思える、そんな「会津坂下町」を実現して参りたいと思いますので、町民の皆様の更なるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成二十三年が、町民の皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

会津坂下町長 竹内 晁俊



火の元 もう一度！

寒さも本番のこの季節、ストーブやコタツなどの暖房機器の出番とともに、暖房器具が原因となる火災が多く発生します。その出火原因の多くは、火を取り扱う人の日常の慣れや、不注意によるものです。

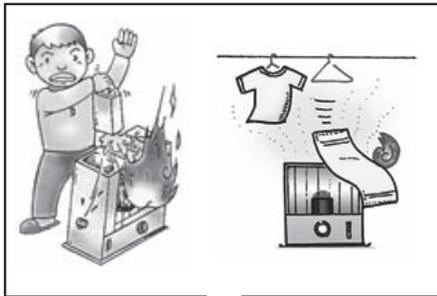
火災を防ぎ、冬を温かく過ごす為に、「火の用心」の基本を忘れないで下さい。

○タバコは消した？



吸殻の火が消えず
出火する危険があります。

○ストーブは大丈夫？

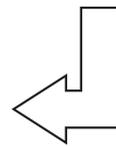
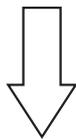
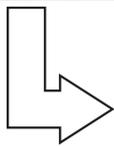


ストーブを使うシーズンです。
灯油を入れる時は火を消し
ストーブの上に洗濯物を干さない。

○ローソクは消した？



線香やローソクは大丈夫？
外出時やお休み前に
もう一度、点検しましょう。



万が一火災になったときの為
避難口を確保し、火災を小さい
うちに発見出来る様

住宅用火災警報器を設置しましょう！

会津坂下消防署 TEL 83-4100



雄叫びをあげる坂下若衆

100万台利用記念イベント

～会津坂下町、会津美里町両町の誇りを懸けて～

平成22年11月28日、新鶴スマートインター（下り）内で会津坂下町と会津美里町の両町の引き子による大俵引きが行われました。

これは新鶴スマートインターチェンジ地区協議会の主催による新鶴スマートインター100万台利用記念セレモニーの一貫として実施されました。

それぞれ21人の引き子が威勢の良い掛け声とともに両町長が乗る重さ3トンの大俵を引き合い、その結果、会津坂下町が2勝1分で勝利しました。

会津坂下町の総大将として参加した佐竹源弘さんは「町のメンツが保てて、意地を見せられて良かった。両町の大俵引きとも今以上に地域に愛される祭りになってほしい。」と話していました。

終了後はお互いの健闘をたたえ合いながら、大俵のまわりで友好を深める力強いガッツポーズが見られました。



戦いを盛り上げた安兵衛太鼓

「負けられない！」と会津美里町



新鶴スマートインター10



また、第2部として新鶴公民館において『これからの新鶴スマートインターの活用について』と題したパネルディスカッションを実施しました。渡部英敏 会津美里町長のコーディネートにより、竹内町長、会津みどり農業協同組合、観光協会、商工会らの両町の代表者らが今後の新鶴スマートインターの活用方法について、数々のアイデアなどを話し合いました。

あいづばんげ市民討議会2010」

～町に対する報告会～

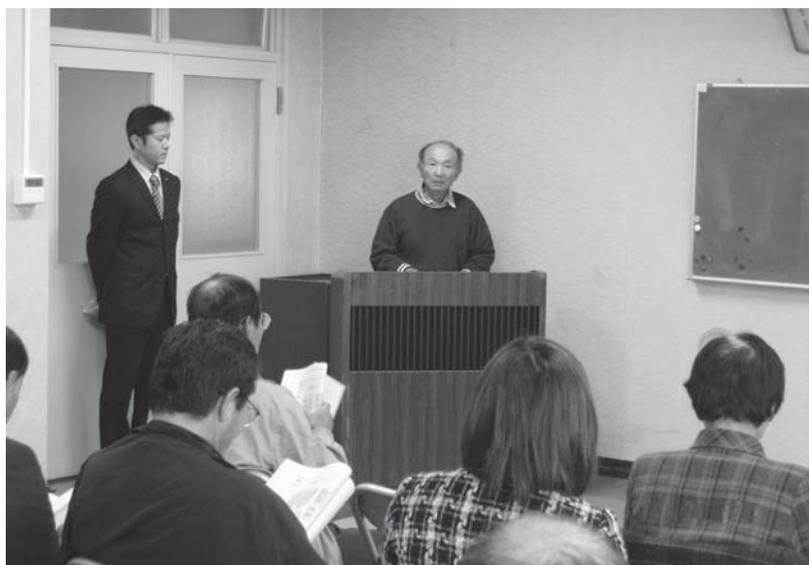
平成22年11月20日（土）、役場大会議室において市民討議会の町への報告会が行われました。

これは、10月9日（土）～10日（日）の二日間にわたり、町中央公民館で開催された「VOICE of あいづばんげ市民討議会2010」において討議した内容を報告書にまとめ、今回、町に報告したものです。

「市民討議会」は、普段町の政策決定にまったく関わらない住民の「見えない意見」を「見える提言」にすることが大きな狙いです。また今年度は、初めての「市民討議会」の実施であり、町の政策決定にとって、この手法を用いることの有効性を試すことも大きな目的でした。

報告会では、渡部篤実行委員長より竹内町長へ報告書が手渡され、討議会に参加した方々から報告書の内容説明、討議会へ参加した感想、町に対する思いなどが語られました。

参加者に対して竹内町長は「市民討議会に積極的に参加いただいたことに感謝いたします。この取り組みで町民の皆様の町に対する様々な思いを聴くことができました。この結果を町として真摯に受け止め、今後の町政を考えるうえで大いに生かしていきたい。」と述べました。



*「市民討議会」とは、ドイツで行われている住民自治の手法を表す言葉です。2005年に東京で実施され、各地に広まっています。

▼問い合わせ先
政策企画班 TEL 84-1504

「VOICE of あいづは

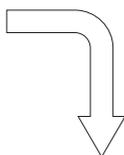
～報告の内容～

*班ごとに発表された意見について、全参加者により投票した結果、得票数の多かったものだけを掲載しています。

テーマ あなたにとって活力あるまちとは？

「自然が生きる環境のあるまち」

「町の対応の良いまち」



テーマ 『自然が生きる環境のあるまち』をつくるには？

「住民の声として行政に働きかける」

「道徳の心得を持つ」

「集客できるまちにする」

「下水処理環境を整備する」

「生物調査をする」

テーマ あなたにとって住みよいまちとは？

「経済 働く場 安定収入のあるまち」

「人の心が感じられるまち」

「集客できるまち」



テーマ 『人の心が感じられるまち』をつくるには？

「家庭教育による人づくりをする」

「家族のつながりを強くする」

「声掛け運動をする」



あなたの声を
まちづくりに！